

平成 28 年 10 月 1 日

学校法人 西鉄学園
西鉄自動車整備専門学校
校長 椎葉 小夜子

「自己評価及び学校関係者評価結果（平成 27 年度版）」 報告

学校法人西鉄学園 西鉄自動車整備専門学校では、平成 27 年度の自己点検・自己評価を実施し、本校規程に基づき学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここに学校教育法施行規則第 189 条に則して「自己評価及び学校関係者評価結果（平成 27 年度版）」を公表いたします。

学校関係者評価委員会からのご意見を真摯に受け止め、教育力の更なる向上、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参ります。

今後とも、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■学校関係者評価委員

氏 名		所属 ・ 役職
企業・団体	自動車業界	奥 和昭 トヨタカローラ福岡株式会社 総務人事グループ グループ長
	業界団体	岸原 武志 一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部長
	校長経験者	井上 武之 篠栗町教育委員長
	卒業生	木下 泰秀 九州日野自動車株式会社 福岡支店 総務課 課長
	事務局（学内）	椎葉 小夜子 理事 校長
	矢ヶ部 友則 教 頭	
	緒方 隆 教務課・就職課 課長	
	阿納 弘通 総務課 係長	
	目原 宏輝 教務課 係長	

西鉄自動車整備専門学校 自己評価及び学校関係者評価結果（平成27年度版）

平成28年10月1日公開

評価項目	自己評価	学校関係者評価
<p>(1) 教育理念・目標</p> <p>○教育理念（建学の精神）・教育方針・育成人材像</p> <p>○職業教育の特色</p> <p>○教育理念・教育方針・育成人材などの教職員・学生・保護者等への周知</p> <p>○学科の教育目標・人材育成像の業界ニーズとのマッチング</p>	<ul style="list-style-type: none"> 創設以来、建学の精神や教育方針に沿って一貫してその実践を促す職業教育を継続している。 学生全員に教育方針の周知徹底を図っているが、浸透させるには至っていない。浸透度の確認体制を強化し、周知徹底させていくことが課題。 最新機器や車両の購入、メーカーによる最新エンジンの寄贈等、教材の充実を図っている。 メーカーによる最新技術講習に教員が積極的に参加し、業界ニーズのマッチングを図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会一般的に「働く覚悟」が希薄になっている現状を打開するためにも、働く意識付けを強化し、企業人としての長期的に活躍する人材の育成を望む。
<p>(2) 学校運営</p> <p>○運営方針に沿った事業計画</p> <p>○学校運営上の各種規程の整備状況</p> <p>○組織や意思決定システムの整備状況</p> <p>○情報のシステム化</p> <p>○人事・給与に関する制度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校の運営方針については、第13次中期経営計画（平成25年～27年）の中で具体的な戦略を策定。 平成27年度事業計画については、第13次中期経営計画に基づいて、学校全体、教務課、就職課、広報課、総務課、それぞれに平成27年度事業計画・目標（アクションプラン）を策定し学校運営にあたっている。 学校運営に必要な規程は整備している。 職務権限規定や校務分掌により、それぞれの役割と責任者の権限が明確にしている。 情報のシステム基盤は整っているが、更なる効率化に向けたシステムの構築及びセキュリティ機能強化が課題である。 人事、給与については規定等で明確にしているが、学校の機能を高める人事考課の見直しが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営に関しては、適正に実施されている。
<p>(3) 教育活動</p> <p>(教育目標設定等)</p> <p>○教育課程の編成方針、実施方針</p> <p>○教育課程・キャリア教育</p> <p>(資格試験)</p> <p>○資格・免許取得の指導体制</p> <p>(教員・教員組織)</p> <p>○人材育成目標の達成に向けた教員の要件</p> <p>○関連業界との連携に関連する教員の確保</p> <p>○教員の組織体制</p> <p>○教職員研修</p>	<p>(目標設定等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育目標については、国土交通省の規定、業界ニーズに沿った人材育成を念頭に検討し、業界の要望や教育課程編成委員会の意見をカリキュラム等に反映させている。 就職後のミスマッチ防止と社会人基礎力を強化するためのインターンシップを導入。社会人スキルを身に付けさせるための内容を構築するためにも、産学連携を強化していくことが重要である。 <p>(教育方法・評価等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年各期別に学習目標や授業内容等を明記したシラバスを学生に配布している。学生の理解度に重点を置き、学生が授業目標に到達しているか、学生のレベルに沿ったものであるか点検し、内容が独善的にならないようにチェック体制を強化していくことが重要。 学生による各授業の評価については、各学年の前後期、授業科目ごとに授業アンケートを実施し、講師は、評価結果をもとに教育技法の改善や修正点の次期授業への反映をPDCA技法で実施している。 <p>(資格試験)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導体制については、責任者を定め、資格取得のための対策授業や補習授業を実施している。 二級自動車整備士以外の資格については、業界で必要とされる資格を斡旋し、取得する機会を学生に提供している。 二級自動車整備士試験の不合格者に対し、卒業後も学ぶ機会を設けるなど合格のための支援を行っている。 <p>(教職員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 採用教員の要件（免許・資格等）は、採用段階で確認済み。 教員は、必要とする専門性を有する業界経験者を中心に確保している。 教員の組織体制については、校務分掌を策定し、校務分担・責任体制を明確に定めている。 教職員の研修体制は、教員研修規程に定めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会にて提案された意見をカリキュラムや資格検定等に反映し、改善を行ったことを評価する。 インターンシップは、社会人としての基礎的なスキルを身に付けさせ、働く意義などの動機付けを高めた上で実施することを望む。 入学者の基礎学力の低下が著しい昨今、学力に応じた指導体制の強化は急務。時間と手間は免れぬが、一層の努力を期待する。 資格取得指導体制の能力別による指導は効果的であり、継続を望む。模擬試験の見直しを行い、目標を高く設定して達成させることに尽力してほしい。 教職員研修に積極的に参加するなど、努力が認められる。最新知識・技術の習得には継続して力を注いでほしい。その習得には、産学連携をより一層深めていくことも大事である。
<p>(4) 学修成果</p> <p>○就職率の向上体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職率及び関係業界就職率に対する目標を100%に定めて取り組み、達成できている。担任と就職課員の連携による就職支援体制と企業との連携が機能し 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車業界を志望する者が減少傾向にあるなか、業界に就職していることは評価できる。

<p>○資格・免許の取得率の向上体制</p> <p>○卒業生の社会的評価の把握</p>	<p>ていると言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力や一般教養を向上させるための支援体制が課題。 二級自動車整備士の資格取得の数値目標は100%。全員取得に向け、レベル別クラスによる学習指導や、理解が進まない学生に対しては補習や個別指導を行っている。 卒業生の対応については、卒業生の就職先を定期的に訪問して、現場での評価を把握することに取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力低下は、社会的にも大きな問題である。レベル別指導や個人指導を行っているのは評価できる。 学生のレベルにばらつきがあり、教育が年々困難になっているが、個人の能力を重視した対応と指導を継続し、更なる教育向上に努めてほしい。 各企業の現場で活躍している卒業生が多く、連携して教育活動を行うことは有益。もっと連携を図っていくことが重要である。
<p>(5) 学生支援</p> <hr/> <p>○就職等進路に関する支援組織体制</p> <p>○退学率等の低減・学生相談の支援体制</p> <p>○学生に対する経済的支援体制</p> <p>○健康管理に対する支援体制</p> <p>○課外活動の支援体制</p> <p>○保護者との連携体制</p> <p>○卒業生の支援体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職課を設置しており、企業に対する求人活動、学生への就職指導など総合的な就職支援活動をしている。併せて、就職関連のセミナーや就職説明会等を開催している。 学生相談については、担任を中心に学生の諸状況の早期把握、保護者との連携強化により早期対応に努めて問題解決を図っている。 年度毎に退学率の目標数値を定めているが、目標数値を下回ることが年々難しくなっている。学生が気軽に相談できる環境整備を充実させていくことが重要。 経済的支援は、校納金の減免措置を行っており、各種奨学金の提示・説明を適正に行っている。 健康管理は、年に1度4月に健康診断を実施している。 課外活動の支援について、可能な範囲内で予算化するなど、活動のための体制作り着手している。 保護者との連携については、個別対応が中心となり、保護者会等の実施までには至っていない。学校の情報を共有できる場を設け、連携強化を図る必要がある。 卒業生の再就職等の相談には適切に応じ、職業紹介などのサポート体制を敷いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 優秀な人材を求めるのはどの企業も同じ。良い人材を確保するためにも協力は惜しまない。産学連携を更に深めていくことを期待する。 目的意識が曖昧なまま職業を選択する傾向があると感じる。働く意識が希薄では就職しても長続きしない。業界の良さ、やりがいを十分に伝え指導していくことを望む。 経済的弱者は社会的な問題にもなっている。更なる制度の充実を期待する。 学生の自主性を高める課外活動の推進を望む。 保護者に業界や教育現場を理解してもらうことは重要。企業とも連携して取り組み、人材育成を図ることが重要。 卒業生を資源として活用するためにも、同窓会などの組織的な活動を期待する。
<p>(6) 教育環境</p> <hr/> <p>○施設、設備の整備体制</p> <p>○学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制</p> <p>○防災組織体制・安全管理体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> 校舎設備については、経年劣化に対して改修するなど、状況に応じて不具合がないよう整備している。また、法人本部安全衛生委員により定期的に全館の点検を実施しており、不備があれば即座に対応している。 インターンシップ制度を1年次に導入し、企業の協力を得て実施した。連携企業の拡大が課題。 海外研修については未着手。環境整備が課題。 防災・安全管理については、「危機管理基本マニュアル」を策定して全教職員が内容を共有し、危機に対応できる体制を整えている。ソーシャルネットワークシステムを活用したシステムの整備が課題。 防災訓練により不測の事態に機敏に行動ができるように指導しているが、定期的な指導・教育により、防災意識を強化していくことが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育環境の整備は、継続して計画的に実行されることを望む。 インターンシップ制度の充実を図る上で、実習期間は重要。学習効果を高めるために、期間延長の継続審議を希望する。 危機意識の啓発と並行して、危機に直面した時に、危機管理体制が機能するような実地訓練も大事である。
<p>(7) 学生の受入れ募集</p> <hr/> <p>○学生募集活動</p> <p>○入学選考基準の適正性</p> <p>○学納金</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生の募集については、広報媒体（紙面媒体、ソーシャル・ネットワークサービス）を活用した積極的な外部への情報発信、ガイダンスへの参加、高校訪問等、入学者募集のための広報活動を行っている。 オープンキャンパスについては、年間計画を立て、多くの参加機会と実習体験ができる内容に工夫している。 入学選考の公平性ならびに判定の透明性は保たれている。 学納金については、募集要項に明確に記載している。 志願者には更に適切な説明を行い、併せて入学時点だけでなく、入学後も学生や保護者の経済状況の変化に応じて納入方法についての便宜を図り、経済的困窮者の就学機会を損なわないよう配慮している。 入学辞退者には、学納金のうち、入学金を除く施設費、授業料、学生諸費を返還する旨を明示し、適切に運用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業と連携し協同でオープンキャンパスを開催・推進していくことは、人材供給の観点から期待も大きい。 入学選考基準に沿って公平な選考試験が実施されており信頼できる。 学納金等の記載事項も明確であり、かつ運用も適正である。

<p>(8) 財務</p> <hr/> <p>○学校の財務基盤体制 ○予算・収支計画の適正性 ○会計監査 ○収支状況の公開体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寄付行為及び理事会による決議 ・ 予算の執行は職務権限規程に基づいて行われ、毎月の予算実績対比表に基づき部室別・勘定科目別に収支予測を作成して予算管理を行っている。 ・ 会計監査については、学園監事の審議を経て学園理事会で承認を受けている。 ・ 収支状況の公開は学校関係者評価開催日以降に公開。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算管理のもとに健全経営が実行されており、財務基盤は安定している。
<p>(9) 法令等の遵守</p> <hr/> <p>○法令に基づく学校運営</p> <p>○個人情報保護</p> <p>○自己評価及び学校関係者評価</p> <p>○情報公開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営については、責任者を定め、社会の信頼を得るべく、関係法令・設置基準等を遵守し学校運営にあたっている。 ・ コンプライアンス窓口は、学内だけでなく、学外（弁護士事務所等）にも設置し、相談しやすい環境を整えている。 ・ 教職員に対してはWebサイトを使用しての「コンプライアンスセルフチェック」を実施し意識の醸成を図っている。併せて、差別等が発生しないようコンプライアンスに関する教職員教育を実施している。 ・ 学生に対しては、年度初めに規則や規定事項を記載した「学生便覧」を配布し、担任教員がホームルームで意識の醸成を図っている。特に新入生に対しては、入学式後のオリエンテーションで「学生便覧」を全ページに渡って解説し、学内ルール遵守を周知徹底させている。 ・ 個人情報保護については、個人情報管理規則を定め、個人データを蓄積した磁気記録の取り扱いや紙面による情報等の漏えいの防止等、学校が保有する個人情報の取得・利用或いはその適正な管理に努めている。また、具体的な事例を常に収集し、事例研究を「個人情報管理規則」に記載して教職員への周知徹底を図っている。 ・ 学校の評価については、自己点検・自己評価を実施して抽出された問題点の改善策を諸活動に反映し、学校の健全性を保つよう努めている。加えて、学生アンケート、授業アンケートなどは教育充実に不可欠な点検事項と位置づけ積極的に実施し、学校評価につなげている。点検結果は全学で共有し、改善点については具体的立案の上、実行している。 ・ 自己評価結果及び学校関係者評価をホームページで公開し透明性を高めているが、第三者評価の実施には至っておらず課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令遵守の取り組みは、企業でも徹底的に実施している。信頼の基礎はルールの厳守にある。教育現場においても、十分に指導してもらいたい。 ・ 個人情報は適正に管理されている。 ・ 自己点検・自己評価においては、課題や改善に向けた対策を立て、確実な実行を望む。 ・ 情報公開は学校の透明性を高め、信頼にも繋がるものであり、全面公開を期待する。
<p>(10) 社会貢献・地域貢献</p> <hr/> <p>○社会貢献、地域貢献の実施</p> <p>○ボランティア活動の奨励と支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校等からの講師派遣の要請には積極的に応じ、自動車整備業界の仕事を幅広く認知してもらう活動を行っている。 ・ 業界を志向する人の拡大が課題であり、業界の特性や面白さ、やりがいなどの情報発信を増やしていくことが我々の社会・地域・業界貢献である。 ・ 年2回の献血を行い、献血ボランティアを推進している。 ・ 募金活動や地域のイベント活動、災害支援などを奨励しているが、支援体制は不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校や地域との連携を図り、業界の面白さや役割、やりがいなど整備士の仕事に夢を持たせる努力と情報発信に期待する。
<p>(11) 国際交流</p> <hr/> <p>○留学生の受け入れ・実施状況 ○国際交流の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 留学生の受け入れは、通常の授業に支障のない日本語能力を条件にしておき、積極的な受け入れをしているとは言いがたい。留学生の受け入れを拡大していくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 18歳人口減少による人材不足を補うためにも、留学生の受け入れ態勢を整備することを望む。